

平成31年度 浜竹保育園事業報告

1. 概要

①運営方針

- 大田区の公設民営園（浜竹保育園含む）4園が災害時応急保育所として、救護復旧活動に従事する職業の保護者に代わり、一時的に子どもを預かる施設と指定されました。保育は直営園の職員が行い、委託園は園舎管理業務を行うという事で2020年2月に訂正版マニュアルが配布されました。委託園長達とマニュアルに沿って確認し、職員に報告しましたが、手順など詳細が分からず理解まで至りませんでした。次年度の大きな課題となりました。
- 大田区の認可園の保育の質について問題が多くなっているという事で、指導検査結果資料をもとに保育向上に向け保育計画や記録様式についてと業務を見直しました。しかし、区から新たな記録物の要請があり、益々事務量が煩雑となりました。
- 平成31年度10月より消費税増税や保育料の無償化実施に伴い、これまで保護者負担であった個人持ちの用品（防災頭巾・カラー帽子・他）について、学年により順次（3年計画）園負担することになりました。保護者に通知し何度末に新入園児分を用意しました。
- 園としてできる「働き方改革」をリーダー中心に検討しましたが、子育て中の保育士についてはシフトや休暇の取り方などまだまだ課題が多く引き続き検討が必要です。現段階では他の職員の理解を得ながらそれぞれ可能な範囲でシフト調整をしています。休暇取得については、リーダー会を中心に話し合い昨年より取得率が上がりました。
- 「保育所保育指針改定」の10項目と3つの視点について、グループ3回ずつ計画と実践を結び付け考える勉強会を実施しました。また、保護者会資料を作成するにあたり各年齢でも照らし合わせながら進め確認することが出来ました。引き続き理解が深まるよう取り組んでいきます。

②定員 140名（大田区との協定によります。）3月末138名の在籍でした。
うち2名予約入所（前期・後期に分け各1名）

③事業日数 308日（12月29日～1月3日までは大田区の規定により休園します。）

④開園時間 月曜日～土曜日 7時15分から20時15分
休日保育実績 (31年度は、10月・11月・12月の3か月のみ実施)
8時30分から17時30分
実施延べ実数 14日46人

⑤保育時間 (月曜日～土曜日)
早朝保育 7時15分から 8時45分
通常保育 8時45分から18時15分
延長保育 18時15分から20時15分

- ⑥職員数 園長1名、主任1名、副主任1名、保育士名23名（要支援児対応分2名含む
看護師1名、栄養士1名、調理員4名、保育補助員1名（朝夕専任）
※うち保育士1名・調理師1名、産休・育休に入る
非常勤保育士3名（うち1名延長保育専任 週15時間）、
パート（早朝保育補助員）2名、
嘱託医（大田区の指定による）内科医1名、歯科医1名

2. 保育運営

①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、学び合う子ども社会の中で、成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②保育方針

- 十分に養護の行き届いた環境の下、子ども達が主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え自己を十分発揮し人として『生きる力』をはぐくむ。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。
- 保育所職員の専門性を活用し、在園児及び地域の子育て支援を行う。

③保育目標

「共に遊び 共に育ち合い 学びに向かう子」

1. 友達と一緒に遊び、楽しみながら様々な体験を重ねる中で、考えたり工夫したり、協力したりしながら主体的に行動する力を身につける子ども
2. 互いの思いや考えを共有したり、自分と異なる考えに気付いたりしながら学びに向き合い、互いに育ち合える子

④クラス編成及び職員配置

| | | | |
|-----|-------|-----|--------------------|
| 0歳児 | かめ組 | 17名 | 保育士7名（産休明け・延長専任1名） |
| 1歳児 | かに組 | 21名 | 保育士4名 |
| 2歳児 | ぺんぎん組 | 24名 | 保育士5名（要支援児要員1名） |
| 3歳児 | いるか組 | 26名 | 保育士3名（要支援児要員1名） |
| 4歳児 | とびうお組 | 26名 | 保育士2名 |
| 5歳児 | くじら組 | 26名 | 保育士2名 |

（園児定員 140名）（保育士 23名）

| | |
|--------|----|
| 主任保育士 | 1名 |
| 副主任保育士 | 1名 |

| | |
|---------|----------------|
| 短時間保育補助 | 2名（非常勤保育士 有資格） |
| 早朝保育補助 | 2名（パートタイマー ） |
| 延長保育補助 | 1名（パートタイマー ） |

⑤保育内容

- 一人ひとりが満足して遊べる、玩具整備と環境作りは、園内勉強会を通し他クラスの保育士と見合っって評価し改善するなど実践に活かす事が出来ましたが、まだ課題は多く次年度に引き継ぎます。
- 4名の認定児（要支援児）のうち2名は個別対応児です。個別支援児在籍の2歳児クラス・3歳児クラスの子ども達も成長につれ、支援児を仲間として受け入れ自然に関わり手助けする姿も見られ統合保育ならではの効果を感じます。
- 4月より体育講師が変わりました。講師の声かけやパフォーマンスに惹かれ意欲的に参加していました。
- 看護師による健康教育が出来ませんでした。その分担任と主任が連携して手洗いキッドを使って子どもワークや病気の話をするなどで対応しました。
- 栄養士と調理師による食育については、食材の展示や触れる機会やクイズなど工夫を凝らし毎月計画的に実践しました。トピックスを掲示することにより保護者にも関心を持っていただけるようになりました。非常食についても防災週間に食体験をしました。
- 統合保育や近隣の老人施設の入居者との触れ合いを通し、「生命・障害・言葉の違い・能力差など」日常の生活のなかで自然に手伝ったり、いたわりの言葉が聞かれるようになりました。
- 幼児クラスは日常の散歩を通し交通安全や地域の商店や自然環境を知らせてきました。保育士とのやり取りを通し子ども同士の会話の中に地域の公園や学校また商店などの会話がよく聞かれるようになりました。

⑥家庭との連携

- 連絡帳や日々の会話の中で保護者が子育てや仕事のことなどで困っている様子を感じた時は、職員間で情報交換し担任・主任・園長など対応者を検討し、タイムリーに声掛け面談したり保育参加や参観に繋げてきました。また、他の保護者にも参考になるような事例は、お便りのテーマに取り上げ情報提供に努めました。
- 園だよりにより保護者からの情報コーナーを設ける予定でしたが、計画性や段取り悪く実施すること出来ませんでした。次年度に向け問題点を見直します。
- 4月より連絡帳を複写式のものに変えました。お迎え予定時間や来られる人の名前なども記入するようになり、伝達事項や情報共有がスムーズになりました。

⑦人材育成

- 昨年度に引き続き「保育実践の中のこどものエピソードから、子どもの思いや成長を学ぶ。」を園内研修のテーマとし、個々の保育実践記録を持ち寄り、グループで主体的に自分の考えや思いを議論しました。経験年数別や担当年齢を振り分けるなど少人数で意見交換しました。自分

と違ふとらえ方や考え方を学び、保育実践に活かされたようです。

- 継続的に「保護者支援及び要支援児対応など対応の難しい事例」の勉強会を重ね、職員間の情報共有や対応を検討してきたので、個々の対応力上り、保護者との信頼関係も高まっていると感じています。
- 大田区主催の研修（保育内容・子育て支援・要支援児対応など）には、去年は1名ずつの参加でしたが、31年度は各会2名参加ということで、体制も大変でしたが、個々の勉強の機会は増えました。保育実践や話し合いの中で学びを活かしています。
- 事務軽減のため乳児は複写式連絡帳を使用しました。連絡帳に記載できない内容は別日誌に補記するが、様式整理が難しく結果、事務軽減となりませんでした。大田区も同様に様式の見直しをしていますが、新たな書類が増え事務量が多くなっています。浜竹として再度検討する必要があります。

⑧地域の実態に対応した事業

地域子育て支援事業

- 子育て支援活動「はまっこクラブ」は5月から1月まで月1回開催しました。7月の水遊びと10月の離乳食講習会は比較的参加者が多くいましたが、他の月は少数でした。参加者の少ない時は、お母さんと子育ての話や情報提供をゆったりとすることが出来ました。要望の多い看護師のベビーマッサージや健康相談は人材の関係で実施できませんでした。
- 栄養士・調理師による「離乳食講習会」を施設見学と抱き合わせを一回、他別日に一回実施し、好評でした。
- 31年度は育児応援券を利用しての体験保育が多く5月から2月までの間に22組が参加しました。また施設見学者も9月から11月で5回設定しましたが、設定日以外も多く受け入れました。合計71組の参加でした。
- 子育て支援連絡会（年2回）や地域関係者会議（年2回）に参加し情報共有をしました。町会長や民生委員さんとの交流や地域の実情を知る良い機会となりました。
- 近隣の老人施設との交流は、8回でした。4歳児と5歳児が交代で交流しました。保護者の方にもトピックス写真で報告し、好評でした。夏祭りの時は、おじいちゃん・おばあちゃんが施設内の庭先に出てこられ一緒に「わっしょい！」と声援を頂き大変喜ばれました。

幼保小中との連携事業、

- 東糀谷保育園と5回交流することが出来ました。両園の年長の担当が年度初めに計画の打ち合わせを行い、役割分担し企画・実施をしました。運動会や発表会の見せっこにより刺激を受け意欲が高まり、積極的に活動に取り組んでいました。しかし、年末のインフルエンザ感染や年明けからのコロナ感染予防などの影響により交流が中止となりました。お互いの名前を覚え楽しみにしていた交流会だけに大変残念な年度末となりました。
- 地域の中学校3校（糀谷中学校・いずも中学校・羽田中学校）の体験学習を受け入れました。11人のうち半数が男子学生でした。素直で真面目な学生が多く子ども達も学生との遊びを楽しんでいました。

⑨苦情処理

- 31年度は4月に「支援児」の休日保育利用するにあたり、支援児が利用できないことに対して、「制度が公平でない」と該当保護者より苦情がありました。保護者と大田区担当者そして園長の間でいろいろ話し合いました。該当児の「支援対象児」を取り下げ、今後の課題として制度を見直すことで落ち着きました。その他は、特に苦情はありませんでしたが、運動会実施予定日が台風となり延期になったことに対し「日程調整が難しかった。次年度は計画段階で予備日を入れて欲しい」と要望がありました。本人には口頭でまた、お便りでも事情を説明しました。

⑩リスクマネジメント

- 事故・怪我に対するヒヤリ・ハット記録も昨年度より利用するようになりましたが、クラスにより意識の差があり、その差が日々の小さな怪我につながっていると評価できます。全体で再度振り返りをする必要があります。
- 災害時の応急保育については、2月になりマニュアル見直しの冊子が配布され、園長レベルで勉強会をしました。全職員にはマニュアルの要点箇所について説明読み合わせをしましたが、共通理解までは進んでいません。今後細部まで読み合わせして共通理解をしていきます。
- 蒲田消防署で救急救命資格取得（継続講習会に6人）参加しました。また、園に来て頂き全員でAED講習を受けました。看護師による応急処置法及び救急救命は実施できませんでした。
- 昨年度から懸案事項となっていました災害メールの配信について春の保護者会で説明し希望者の加入手続きを行い、台風時に利用することが出来ました。
- 除去食対応につきましては、問題なく過ごす事が出来ました。

⑫その他

- ・31年度は3歳児クラスをコットからマットに切り替えました。